

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第26週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (26週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 3 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症：日本紅斑熱 1 例。
- 5 類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌感染症 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	50 歳代	男	無症状病原体保有者	—
			60 歳代	女	無症状病原体保有者	—
		日南	80 歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	高千穂	60 歳代	女	無症状病原体保有者	O血清群不明(VT2産生)
4類	日本紅斑熱	宮崎市	70 歳代	女	—	発熱、発疹
5類	カルバペネム腸内細菌感染症	宮崎市	70 歳代	女	—	腹膜炎、創部感染症
		延岡	80 歳代	男	—	肺炎
	クロイツフェルト・ヤコブ病	宮崎市	60 歳代	女	古典型クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) 診断の確実度：ほぼ確実	進行性認知症、小脳症状、視覚異常、 無動性無言状態、記憶障害、精神・知能障害、 臨床的に頑固な不眠
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	0~4歳	女	—	意識障害、菌血症 ワクチン接種歴：有り(1回目 平成29年5月)

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は923人(定点当たり26.9)で、前週比119%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は水痘、手足口病及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎である。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

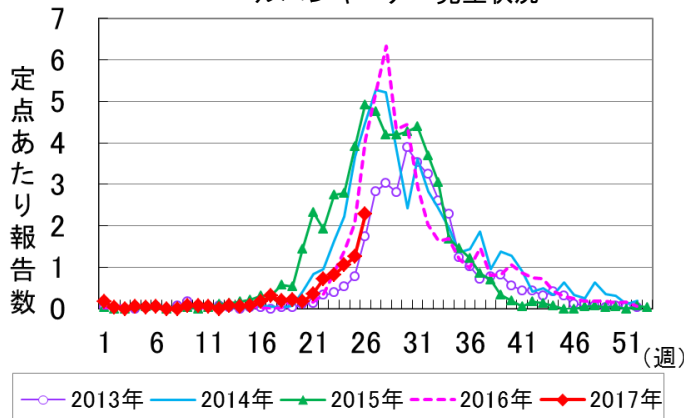
##### 【ヘルパンギーナ】

報告数は82人(2.3)で、前週比181%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(4.4)の約0.5倍である。日向(4.3)、日南(4.0)、宮崎市(2.9)保健所からの報告が多く、年齢別は1~2歳が全体の約6割を占めた。

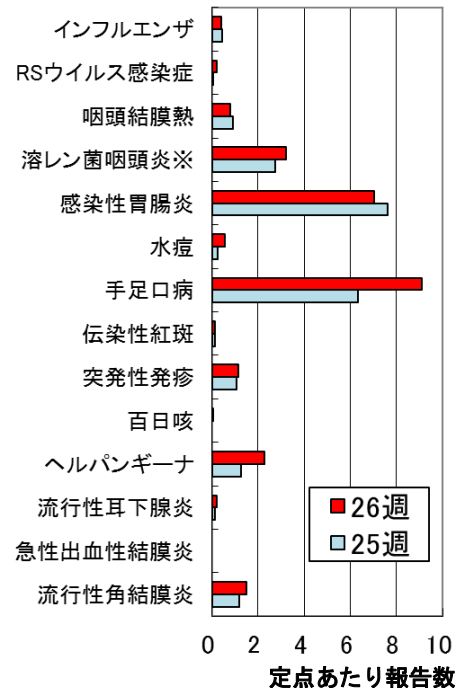
##### 【手足口病】

報告数は328人(9.1)で、前週比144%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(3.2)の約2.9倍である。日向(14.5)、日南(12.3)、都城(9.3)保健所からの報告が多く、年齢別は6ヶ月~2歳が全体の約8割を占めた。

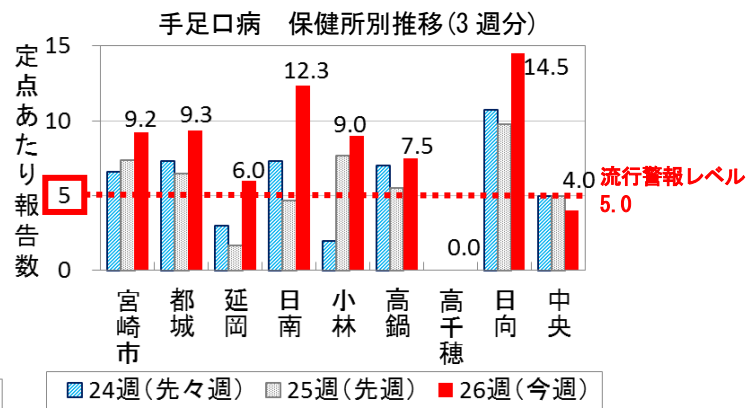
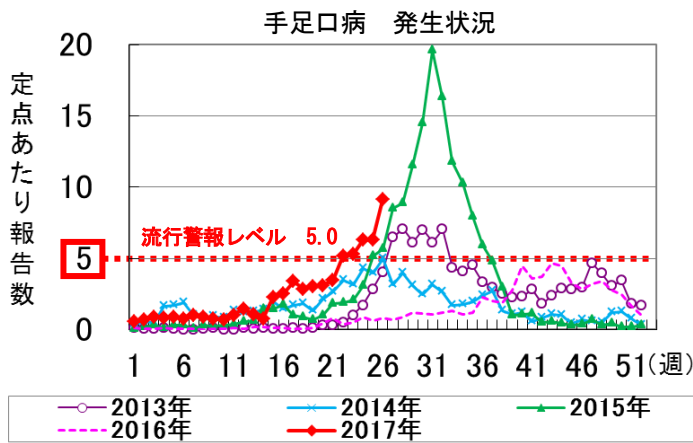
\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均  
ヘルパンギーナ 発生状況



《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★

- マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から1例報告があり、10歳代であった。
- 感染性胃腸炎（ロタウイルス）：都城保健所から1例報告があり、0～4歳であった。なお、病原体の群別は不明である。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(9.2)
都城	手足口病(9.3)
延岡	手足口病(6.0)
日南	手足口病(12.3)
小林	手足口病(9.0)
高鍋	手足口病(7.5)
高千穂	なし
日向	手足口病(14.5)
中央	なし

\*流行警報レベル開始基準値\*

・手足口病(5.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成29年7月4日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
Salmonella Stanley (O4:d:1,2)	80歳代	女	2017.06.12	-	便	2017.06.20
Salmonella Stanley (O4:d:1,2)	70歳代	女	2017.06.15	発熱(39.0℃)、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便/尿	2017.06.20
Salmonella Stanley (O4:d:1,2)	50歳代	女	2017.06.17	胃腸炎(水様性下痢)	便	2017.06.23

○患者3名から、Salmonella Stanley が分離された。サルモネラは無症状のまま保菌している場合もあるが一般的に胃腸炎を呈することが多く、現在分離されている S. Stanley は、小児や高齢者で高熱や血便などの重篤な症状の報告が多くみられる。梅雨から9月までの高温多湿な状態では、細菌による食中毒が多く発生するため、今後も引き続き注意が必要である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
インフルエンザウイルスB (ビクトリア系統)	5～9歳	女	2017.03.29	パラインフルエンザ疑い、39.0℃、胃腸炎(嘔気・嘔吐)	鼻汁	2017.06.27
インフルエンザウイルスB (ビクトリア系統)	10歳代	男	2017.03.29	パラインフルエンザ疑い、39.4℃、胃腸炎(嘔気・嘔吐)	鼻汁	2017.06.27
インフルエンザウイルスB (ビクトリア系統)	30歳代	男	2017.04.25	インフルエンザB型、38.4℃、頭痛、関節痛、咽頭炎	鼻汁	2017.06.27
インフルエンザウイルスB (ビクトリア系統)	5～9歳	男	2017.05.15	インフルエンザB型、38.0℃、上気道炎(咽頭痛)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.06.30
インフルエンザウイルスB (ビクトリア系統)	0～4歳	女	2017.05.18	インフルエンザB型、38.2℃、頭痛、上気道炎(咽頭炎、咽頭痛)、関節痛、筋肉痛(関節炎)	鼻汁	2017.06.30
インフルエンザウイルスB (山形系統)	5～9歳	男	2017.04.05	インフルエンザB型、40.2℃	咽頭ぬぐい液	2017.06.27
インフルエンザウイルスB (山形系統)	10歳代	女	2017.04.21	インフルエンザB型、37.8℃、筋肉痛、上気道炎	鼻汁	2017.06.27
インフルエンザウイルスB (山形系統)	0～4歳	男	2017.04.25	インフルエンザB型、39.6℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2017.06.27
インフルエンザウイルスB (山形系統)	5～9歳	男	2017.04.27	インフルエンザB型、39.2℃、上気道炎	鼻汁	2017.06.27
インフルエンザウイルスB (山形系統)	5～9歳	女	2017.05.08	インフルエンザB型、発熱、胃腸炎(腹痛)	鼻汁	2017.06.30
インフルエンザウイルスAH1 pdm09	0～4歳	女	2017.04.26	インフルエンザA型、38.4℃、上気道炎、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2017.06.27
アデノウイルス2型	0～4歳	男	2017.04.17	気管支肺炎、腸炎、39.0℃、下気道炎(気管支炎)、胃腸炎(下痢、嘔気、嘔吐)	便 咽頭ぬぐい液	2017.06.21
パラインフルエンザウイルス1型	10歳代	男	2017.06.15	急性気管支炎、39.4℃、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.06.21
ヒトメタニューモウイルス	0～4歳	男	2017.06.18	急性咽頭炎、川崎病疑い、39.0℃、咽頭炎、咽頭痛、発赤、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.06.21

○インフルエンザと診断された9名及び、パラインフルエンザウイルス疑いの小児の鼻汁からインフルエンザウイルスが分離された。全国のインフルエンザウイルス分離・検出情報をみると、4月はA型(AH3、AH1pdm09)とB型(ビクトリア系統、山形系統)の割合が同じ程度であったのに対し、5月はB型が圧倒的に多く、A型の約4倍となっている。本県も5月は、AH3が1件、B型(山形系統)が2件、B型(ビクトリア系統)が2件と、B型の占める割合が高くなっている。

○気管支肺炎と診断された乳児の便及び咽頭ぬぐい液からアデノウイルス2型が検出された。アデノウイルス2型は呼吸器感染症の起因ウイルスであり、アデノウイルスのなかでは全国で最も多く検出されている型である。例年、6月から7月にかけて検出数が増加することから、今後の動向に注意する必要がある。

## 🇯🇵 全国 2017 年第 25 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症（全国第 25 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	436 例				
3類感染症	コレラ	1 例	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	81 例
	腸チフス	1 例				
4類感染症	E型肝炎	7 例	A型肝炎	4 例	オウム病	2 例
	重症熱性血小板減少症候群	3 例	つつが虫病	2 例	デング熱	3 例
	日本紅斑熱	7 例	マラリア	2 例	類鼻疽	1 例
	レジオネラ症	33 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	12 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	25 例
	急性脳炎	7 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7 例
	後天性免疫不全症候群	17 例	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	37 例	水痘（入院例）	6 例
	梅毒	70 例	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	2 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5 例				

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 99%と横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナで、減少した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎である。

咽頭結膜熱の報告数は3,082人(0.98)で前週比101%とほぼ横ばいであり、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.71)の約1.4倍である。山梨県(2.6)、鹿児島県、北海道(各2.0)からの報告が多く、年齢別では1~3歳が全体の6割を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は10,895人(3.5)で前週比96%とほぼ横ばいであり、例年同時期の定点当たり平均値\*(2.6)の約1.3倍である。鳥取県(6.8)、福岡県(6.0)、大分県(5.8)からの報告が多く、年齢別では4~5歳が全体の約3割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2017年 第26週(6月26日～7月2日)

疾病名		第25週	第26週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	25	23			1	22					
	定点あたり	0.43	0.39	0.00	0.00	0.14	4.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	2	7	4	1				2			
	定点あたり	0.06	0.19	0.40	0.17	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	32	28	5	6	6	8	2	1			
	定点あたり	0.91	0.78	0.50	1.00	1.50	2.67	0.67	0.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	96	116	63	4	12	10	1	5	5	11	5
	定点あたり	2.74	3.22	6.30	0.67	3.00	3.33	0.33	1.25	5.00	2.75	5.00
感染性胃腸炎	報告数	266	253	57	37	22	37	51	11	2	31	5
	定点あたり	7.60	7.03	5.70	6.17	5.50	12.33	17.00	2.75	2.00	7.75	5.00
水痘	報告数	9	20	7	1		5		2		5	
	定点あたり	0.26	0.56	0.70	0.17	0.00	1.67	0.00	0.50	0.00	1.25	0.00
手足口病	報告数	221	328	92	56	24	37	27	30		58	4
	定点あたり	6.31	9.11	9.20	9.33	6.00	12.33	9.00	7.50	0.00	14.50	4.00
伝染性紅斑	報告数	5	5			5						
	定点あたり	0.14	0.14	0.00	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	37	41	14	3	1	9	10	2		2	
	定点あたり	1.06	1.14	1.40	0.50	0.25	3.00	3.33	0.50	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	44	82	29	5	6	12	3	8		17	2
	定点あたり	1.26	2.28	2.90	0.83	1.50	4.00	1.00	2.00	0.00	4.25	2.00
流行性耳下腺炎	報告数	5	8	2	1	2					1	2
	定点あたり	0.14	0.22	0.20	0.17	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	2.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	7	9	9								
	定点あたり	1.17	1.50	3.00	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	1	1	1								
	定点あたり	0.14	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	2	1		1							
	定点あたり	0.29	0.14	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～26週)

2類感染症	結核	99例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5例(1)				
4類感染症	E型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	7例	つつが虫病	6例
	日本紅斑熱	2例(1)	レジオネラ症	3例		
5類感染症	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	6例(2)	急性脳炎	3例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例(1)	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	後天性免疫不全症候群	5例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	13例(1)	水痘(入院例)	1例
	梅毒	6例	破傷風	2例	麻疹	1例

( )内は今週届出分、再掲